

わたしを見つめるもう一人のわたし

初稿 → 今後、改稿される予定です。

作 山田裕幸

【登場人物】

男

女1

女2

都会のビルの屋上。

座って釣り竿を持つ男と、目的をとくに持つことなく、男の存在を感じているのか、感じていないのか、わからないように、自由にうろついている女1がいる。

しばらくして、女1、男に近づき、話しかける。

女1 釣れた？

男 今日はボウズやな。

女1 ボウズか。

男 つるんつるんや。

女1 ほんなら、何食べるん？今夜。

男 なんかしら、あるやろ。

女1 それがな、何もないねん。

男 ほんまか。

女1 ほんまや。

男 そら、まいったな。

女1 なんか探してこよか？

男 やめとき。下に降りても、ろくなもん、あらへん。
女1 だけど、もう、お腹がぺこぺこや。

男 我慢せえ。少しくらい食べんでも、大丈夫や。

女1 せやけど、わたし成長期なんやで。おっちゃんとは違うんや。
つこてるエネルギーの量がぜんぜん違うんやで。

男 おっちゃんやて、つこてるわ。エネルギー。

女1 はあ？一日中、座り込んで、釣り糸垂れてとるだけやろ。

男 これがな、結構、使うんや、エネルギー。火力発電だけじゃ、
たりひんのや。

女1 何言うてんの。ああ、お腹減ったよー。成長期なんやぞー。エ
ネルギー、必要なんやぞー

男 ぎょうさん原発、動かしたるか？おっちゃんが。そしたらエ
ネルギーも足りるやろ。

女 原発はあかんやろ。爆発したら、世界が減んでまうわ。それ
に、おっちゃんには、動かされへん。周到な、根回しの末に、
はじめて動かすことできるんやで。

男 よう知つとるな。子どもやのに。

男の釣り竿に、あたりがくる。

男 おお！かかった、かかった。

女1 ほんまかいな？

男 こりや、きつと、大物や。

男、必要以上に大きさに、大物を釣り上げる。

男 やったー、釣れたでえ。

女1 なにこれ。

男 決まってるやろ。悪い言葉や。ほら見てみ。あそこに走って
る電車、見えるやろ。その前から4両目にあつた言葉や。い
い年こいたおっさんが、高校生を怒鳴りつけてる、悪い言葉
やで。

女1 なんちゆう言葉？

男 ええねん、言葉の中身は知らんでも。ちいちゃいこどもには、
わからんで、ええねんよ。

女1 ちいちゃいことないわ。立派な成長期や。

男 なんでもええから、ほら、はよ食べ。腹、減つとんねやろ。
女1 (悪い言葉を手で持ち上げる)
男 ささ、遠慮せんと、食べや。
女1 そんなにじろじろ見られると、食べにくいわあ。
男 なに、恥じらってますの。
女1 これが恥じらいか。
男 確かに成長期やな。恥じらいは、乙女の特権や。
女1 向こうで食べてくるわ。
男 どうぞ、ごゆくり。

女1、どこかへ消えてしまう。
男、ふたたび、釣り糸を垂らす。
しばらくして、女1の叫び声。

女1 出たー
男 なんや！
女1 おっちゃん、出たで。
男 だから、何が出たんや。
女1 決まってるやろ。出たって言うたら、トイレでする大きな方
か、おぼけに決まってるやろ。
男 そんな声、出さんでも。
女1 大丈夫やない。私の心臓、一秒くらい、止まったわ。
男 止まってない、止まってない。一秒でも止まったら、そら、死
んでますわ。

しばらくして、女2が登場する。

女2 ぬ。
男 ぬっと登場しはった。
女2 あら、失礼。まさか、人がいるとは思わなかった。
女1 すいませんね。
女2 いえ、こちらこそ、ごめんなさい。
男 なんや、おぼけちやいますやん。
女1 ほんまやね。きれいな人やあ。

男、釣りに戻る。

女2 釣りですか？
男 そうです。
女2 何が釣れるのかしら。
女1 言葉。
女2 言葉？
女1 そう。悪い言葉を、おっちゃんが、釣ってんねんよ。
女2 へえ。
女1 あんた、ええ匂いすんな。女の匂いがする。
女2 嫌い？
女1 いいや。お母さんも。こんな匂いしてたから。
女2 そう。
女1 ちよつと、かいでもいい？匂い。もつと近くで。
女2 どうぞ。
女1 (女2の胸元に顔をうずめ、匂いを嗅ぐ)
女2 (されるがまま、じつとしている)
女1 ええ匂いや。(女2から離れ)で、何しに来たん？
女2 わたし？
女1 あんたに決まってるやろ。やっぱり、ここから飛び降りるために来たんか？
男 これ。
女1 やっぱりそうか。
男 そんなん訊くもんちゃう。デリカシーないで。
女1 だって、飛び降りする人には見えんやろ。せやから訊いたんや。
男 飛び降りるも、降りんも、その人の勝手や。それを、邪魔したらあかん。
女1 はあい。わかりました。
男 ささ、私らのことは気にせんと、どうぞ、あんたの自由になさってください。飛び降りるも、飛び降りないも、どうぞご自由に。僕らのことは、気にしないで結構ですから。
女2 ここで何をなさっているんですか。
男 しがない釣り人ですわ。
女1 しがない成長期の女子ですわ。
女2 親子ですか。
男 いえ、違います。

女1 わたしのお父ちゃんも、お母ちゃんも、もうずいぶん前に死んだんや。

女2 それはつらいわね。

女1 つらくはない。ただ、寂しい。

女2 寂しいのも、つらいね。

女1 難しいことわからんけど、時々、泣くよ。

男 あるからして、ふたりで、ここで暮らしてるんです。

女2 言葉を釣っているんですか。

男 他にやることもないので。趣味程度にさせてもらってます。

女2 私、初めて知りました。言葉を釣っている人がいるって。

女1 誰かが釣らなんとあかんねんって、おっちゃん、いつも言ってるわ。

女2 その、悪い言葉って、例えば、どういう言葉？

女1 知らん。わたし、食べる専門やから。

女2 (男に) どんな、言葉ですか。

男 そりゃ悪い言葉ですよ。街に溢れる、悪い言葉たちを、私がこうして、せつせと釣り上げています。悪い言葉は、あふれかえってますので、釣っても釣っても、一向に減ることはありません。むしろ、増えているくらいです。誰の言葉かもわからない匿名の言葉が、あちらこちらにういています。ぶーかぶーかと浮いています。

女2、 屋上から街を眺める。

女2 眺め、いいですね。こんな場所があるなんて、知らなかった。

男 鍵のかかってない屋上は都内ではめずらしいですからね。よく見つけましたね。

女2 SNSに書いてあったんです。

男 どうりで。最近、ここに来る人が増えてるなーって思ってたんですよ。

女2 言葉・・・？

男 はい？

女2 イントネーションが変わりましたね。

男 ああ。あの子のイントネーションが、知らないうちに、うつってしまってます。面白いですね。

女2 きつと、耳がいいんでしょうね。

女1は、周囲をうろろしている。

女2 少し見学してもいいですか。釣り。

男 そりゃもう、ご自由に。

女2 幼いころ、父親と一緒に釣りをしました。それ以来です。こうして、釣りをする人の隣にいるの。

しばらく、ふたり無言。

女2 わたしね、苦しいんですよ。

男 へえ。

女2 見えますか？

男 どうですかね。見えると言えば見えるし、見えないと言えば見えます。

女2 ですよね。そんな、人の感情なんて外からは見えませんよね。

ここに来たみなさん、どこへ行かれたんですか。さつき、おつしゃいましたよね、最近、増えているって。

男 さあ。気が付くと、みんないなくなっているんですよ。

女2 遺書は、ないんですか。

男 さあ。見たことないです。

女2 楽しかったんです。幼いころからずっと、一度も苦しいなんて思うことはなかったんです。両親は、私をとっても愛情深く育ててくれました。

男 では、なぜ今「苦しい」と思うんですか。

女2 それはたぶん私が「女」だからかもしれない。それか私が「わたし」だからかもしれない。

男 そうですか。

女2 見てください、私の顔。ほら。

男 (見る)

女2 見えませんか？私の、苦しみ。

男 悲しいのですか？

女2 嬉しいの。

男 悲しいのに嬉しいとは、反対言葉の同棲ですね。

女1、近づいてきて、

女1 なんや、二人とも、そんなに近づいて。あんまり、近づいたら、赤ちゃんできるで。どうやって、暮らしてくん？今、赤ちゃんと生まれたら。

男 平気や、できへんから。赤ちゃん。

女1 ほんまかー？お母ちゃん言ってたで。男と女が、ずーっと近づいていると、赤ちゃんができるって。

男 だから、今、だけやから。大丈夫やから、心配しなさんな。お腹は？膨れたか。

女1 さつき悪い言葉、食べたから。

女2 どんな言葉だったの？

女1 さあ・・・もう食べちゃったから、わからんわ！

男 この人、苦しいんだって。苦しい？

女2 そうなの。とても。

女1 苦しい言葉は、食べられないんか。おっちゃん。無理やろな。

女1 食べられたらいいのに。ほんなら、わたしが、食べてあげます。

女2 ありがとう。その気持ち、嬉しい。

女1 言葉を自分で飲み込むからちゃうのん？あんた、きれいやし、ええ匂いもするのに、言葉、みんな飲み込んでるやろ？

女2 そうかしら。

女1 きつとそうや。ぜやから、あんた、きれいやのに、死んでるみたいに見えるんや。あかんで。そんなに、飲み込んでばかりいたら。どんどん、吐き出さないと。膀胱炎になるで。おしっこちゃうで。言葉が詰まってしまっや。

男 これ。初対面の人に、何てこと言うんや。

女1 えへ、めんご、めんご。

男 こどもは、あっち行ってろ。

女1 赤ちゃん、ほんまにできへん？

男 できへんから、安心せい。

女1、とぼとぼ、歩いていってしまう。

男 たまには街の様子もみるんやで！いつ変わるかわからんから

な！ええな！

女1、片手を挙げて、応える。

男 すいませんね。失礼なことを言って。ちょっと足りてないんです。あの子。

女2、立ち上がり、街を見渡す。

女2 街の様子は、変わりますか。

男 時々、とんでもないことが起きるんです。だから、気を抜けないです。

女2 例えばどんな？

男 そりゃあ、まあ、あれですよ。権力の暴走、富の集中、差別に排除・・・今も、どこかしこで生まれる言葉たち。

女2 言葉たち・・・飲み込む・・・わたしが・・・言葉を・・・もしよかつたら、

女2 はい。

男 苦しくなったわけを、話してみませんか。話せば、何かが変わるかもしれません。

女2 なぜだろう。

男 例えば、いつ？とか、具体的でなくても、いいんです。

女2 大人になったとき・・・孤独を感じたとき・・・誰からも愛されていないと知った時・・・生きにくさを感じたとき・・・どんなに頑張っても、自分の力だけじゃ、何もできないと実感したとき、力づくで抑えられたとき、無理に求められたとき・・・今も、あなたは、深い苦しみの中にいる。

女2 ええ。

男 あなたの言葉が、あなたを救うことも、あるんじゃないですか。

女2 私の言葉が私を？その言葉は、いったいどんな言葉？

突然、女1が走りこんできて、

女1 おっちゃん！

男 なんや！いい雰囲気の人に。

女1 ふ、ふ、ふ、船！

男 なに？

女1 船が、向こうから近づいてくるわ。

男 なんやっつて！

女1 空飛ぶ船や！

男 あほ。船が空を呼ぶか！

女1 ほんまやっつて。でーっかい船が、こっちに向かってるんやっつて。

女2 ほんとだ。

男 え？

女2 ほら、あそこに、船が浮かんでる。

男 ……ほんまや。

女1 嘘やないやろ。

女2 誰が乗ってるのかしら。

男 さあ。

女1 おーい、こっちやで！ここにいますー

男 待て待て。怖い人がぎょうさん乗ってるかも。

女1 それはそれで、楽しいやん。怖い人と遊ぶんも、悪ない。おーい。悪い言葉の釣り人のいる広場はここですよ。きれいなお姉さんも、今ならいますよー。なんなら、私が、灯台になりましょか？

男 どうやってなるんや、灯台に。

女1 光ってくる回る回ればいいんやろ？

男 それが、難しいっっちゃうねん。

女1 おーい、

女2 ……

女1 おーい、

女2 ……

女1 はよ大人になりたいんや。あの船に乗って、はよ大人になりたい。ほんで、お母ちゃんにも、もう一度会いたい。

女2 叶うといいね。会えるといいね。

女1 きつと叶うし、きつと会える！

と、船が沈んでいったようだ。

女1 何でや！何で、沈むー

男　ほんまや。沈んでる……

女1　おーいがんばれー、船の人たち！沈むなー、浮かべ、進めー。

女1、必死に灯台になろうとするが、船は沈み続ける。

女1　なんや……もう沈んでしまいはった……

男　ほんまや。早かったなあー、沈み始めると、あつという間や
ったわ。

男も、釣りに戻って、何事もなかったかのように過ぎす。

女2　残念だったね。船。

女1　そのうち、また、来るやろ。

女1、どこかへ行ってしまう。

女2、男の横へ行く。

女2　ここは沈まない？

男　さあ。

女2　ここは、まるで名もなき言葉に浮かぶ、孤島ね。

男　どうですかね。

女　もう少し、ここにいていい？

男　構いませんけど快適な暮らしではないですよ。

女2　見てみたいの。この未来を。自分が迷い込んだ場所ですもの。もう少しだけ、ここに、いさせてください。

男　好きなだけどうぞ。お構いは、できませんが。

女2　どうぞお構いなく。では少しだけ、ゆつくりと、街を眺めて
みます。

男　気が向いたらで結構です。あなたの言葉を、待っています。あ
なただけの言葉を待っています。

遠くに、女1の遊ぶ姿。

女2　（街を見ている）

男　（女2の後ろ姿を見ている）

やがて幕。